

1. 件 名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（女川原子力発電所2号機工事計画）（36）
2. 日 時：令和2年12月11日 13時30分～18時00分
3. 場 所：原子力規制庁 8階A会議室（一部TV会議システムを利用）
4. 出席者：（※ TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

止野上席安全審査官、植木主任安全審査官、片桐主任安全審査官、
藤原主任安全審査官、三浦主任安全審査官、皆川主任安全審査官、
宮本主任安全審査官、小野安全審査専門職、土居安全審査専門職、
服部安全審査専門職、山浦技術参与、西澤原子力規制専門員

技術基盤グループ 地震・津波研究部門

堀野技術参与

東北電力株式会社：

原子力本部 原子力部 課長、他4名

原子力本部 原子力部 部長、他6名※

5. 要 旨

- （1）東北電力株式会社から、女川原子力発電所2号機の工事計画補正申請のうち、サプレッションチェンバの耐震性について、提出資料に基づき説明があった。
- （2）これに対し、原子力規制庁は以下の点について指摘等を行うとともに、今後、説明内容について引き続き確認することとした。
 - サプレッションチェンバの耐震補強のうち強め輪及び連結板について、当該補強範囲の考え方を整理して、説明すること。
 - サプレッションチェンバの地震応答解析モデルについて、3次元はりモデルが適用できる条件を体系的に整理して、説明すること。
 - サプレッションチェンバ本体及びボックスサポートのモデル化について、各部材の剛性、質量など詳細を整理して、説明すること。
 - 3次元はりモデルにおけるボックスサポート部のモデルについて、ボックスサポート下端の基礎ボルトの境界条件をサプレッションチェンバ（大円）の半径方向に自由と設定している考え方を整理して、説明すること。

- 地震応答解析モデルの妥当性確認に用いている3次元シェルモデルの詳細を整理して、説明すること。
- 地震応答解析モデルの妥当性確認における3次元はりモデルと3次元シェルモデルの比較について、固有値解析結果に加え地震応答解析結果の比較を示すこと。
- 地震応答解析モデルの妥当性確認における3次元はりモデルと3次元シェルモデルの固有周期の比較について、固有周期が相違している理由を整理して、説明すること。
- 地震応答解析モデルに対するバルジングの影響検討で示されているサプレッションチェンバの変形について、3次元はりモデルを適用する場合、これらの変形の影響を考慮しなくてよい考え方を整理して、説明すること。

(3) 東北電力株式会社から、(2) について了解した旨の回答があった。

なお、本面談については、事業者から対面での面談開催の希望があったため、「新型コロナウイルス感染症対策に係る原子力規制委員会の対応の一部変更について」(令和2年6月24日 第12回原子力規制委員会配付資料)に基づき、一部対面で実施した。

6. その他

提出資料：

- (1) VI-2-9-2-1-2 サプレッションチェンバの耐震性についての計算書(02-E-B-08-0001__改0)
- (2) 補足-600-11 サプレッションチェンバの耐震計算書に係る補足説明資料(02-補-E-19-0600-11__改0)

以上